新潟市共通
アプローチカリキュラム
自園化の道程

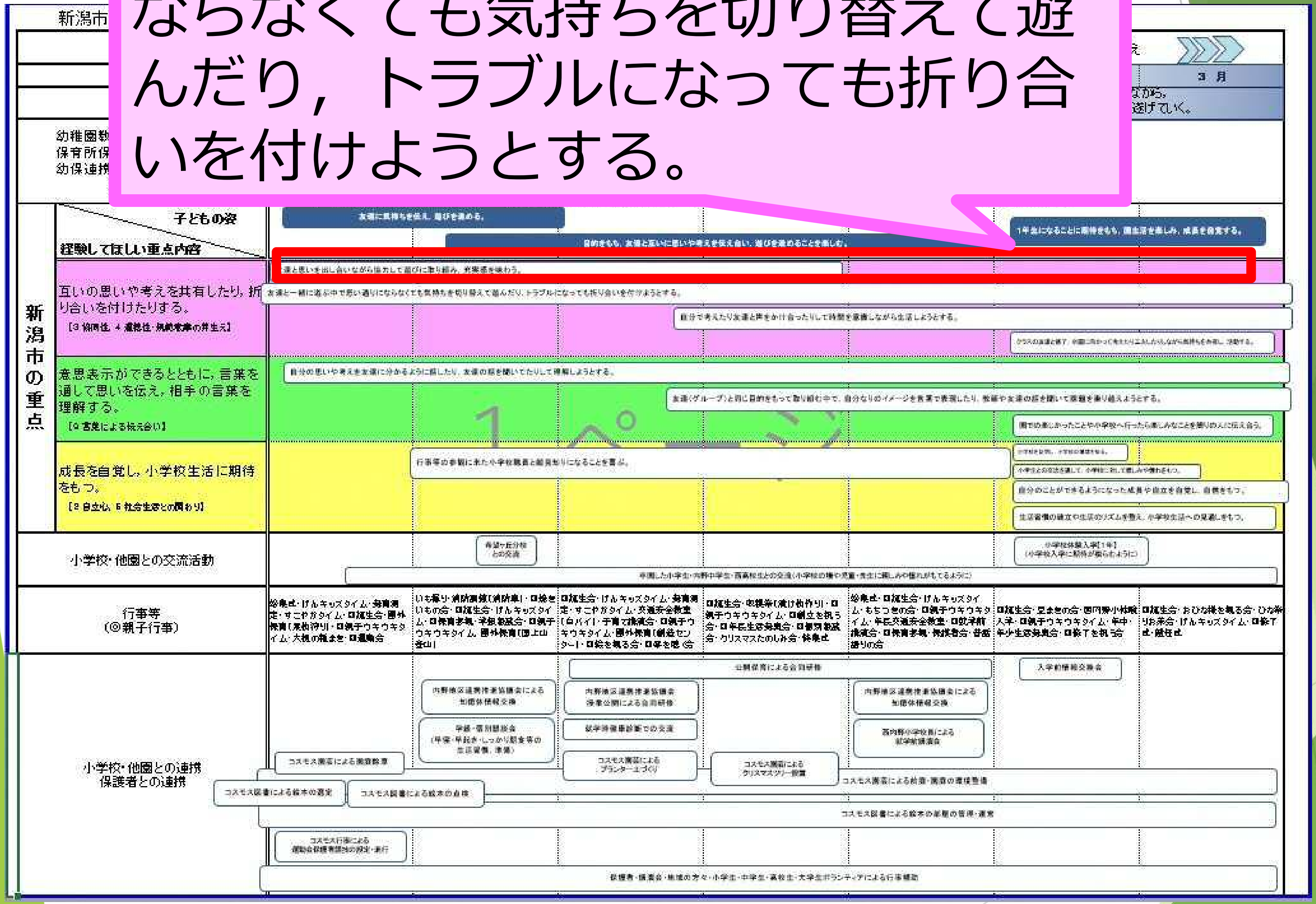
新潟市立西幼稚園

1　自園化の実際

（１）　市教委が示す「人との関わり」に重点をおき、ピンク・緑・黄色の重点内容に、子どもの姿を重ね、アプローチカリュラムを作成する。

【　園の教育課程に照らして、実際の子どもの姿や、行事、連携などを考え併せながら。】

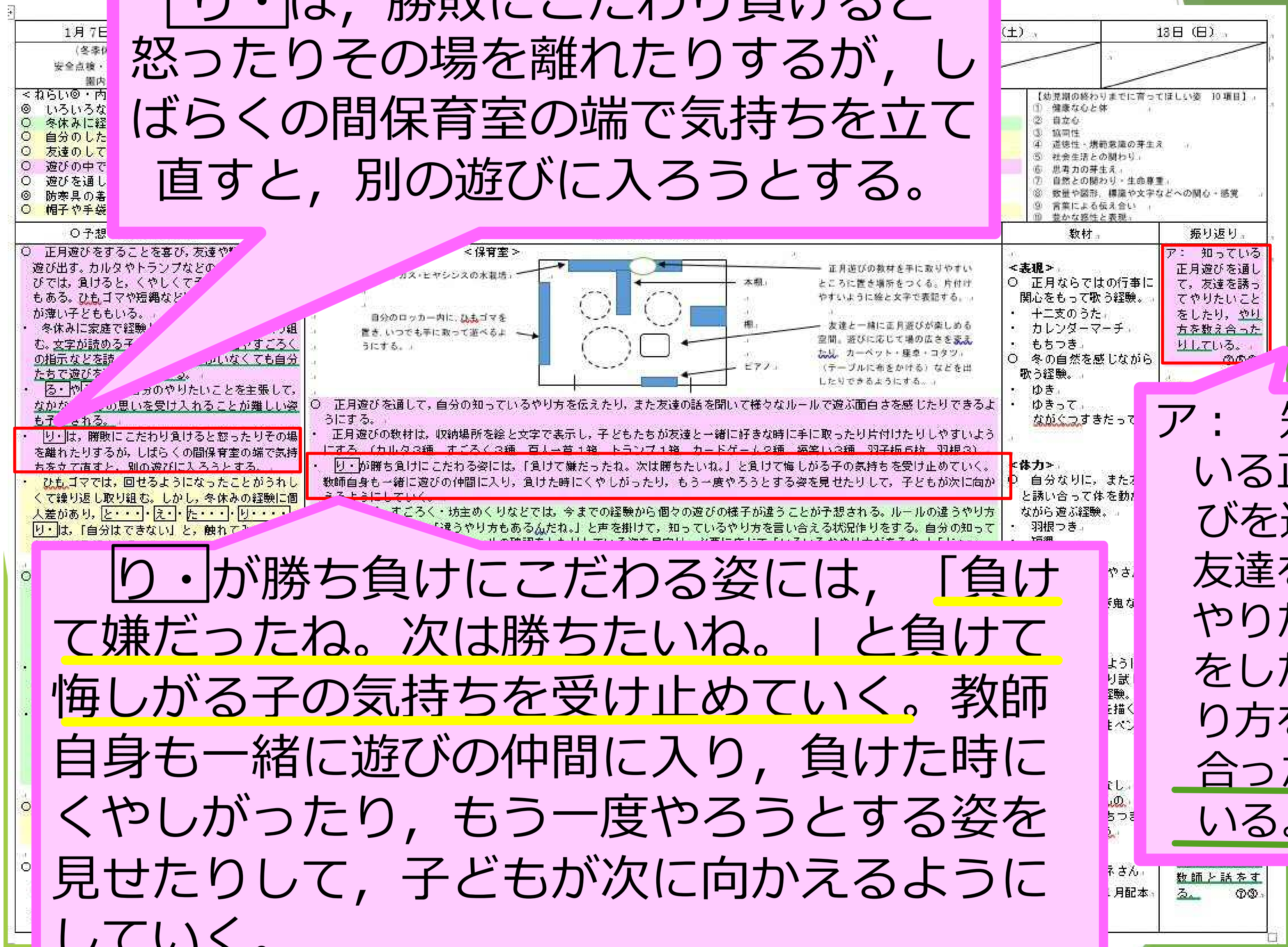
友達と一緒に遊ぶ中で思い通りにならなくても気持ちを切り替えて遊んだり，トラブルになっても折り合いを付けようとする。



１　自園化の実際

（２）　アプローチカリキュラム
をもとに、短期案の「幼児の
姿」・「ねらい」・「環境・構
成・援助」・「振り返り」を色分
けする。

【　ヒントは、「１０の姿」。
　一色に色分けできない部分は、
メインの内容に、付加するもの
をその色の下線で引いていく。】



り・は，勝敗にこだわり負けると怒ったりその場を離れたりするが，しばらくの間保育室の端で気持ちを立て直すと，別の遊びに入ろうとする。

り・が勝ち負けにこだわる姿には，「負けて嫌だったね。次は勝ちたいね。」と負けて悔しがる子の気持ちを受け止めていく。教師自身も一緒に遊びの仲間に入り，負けた時にくやしがったり，もう一度やろうとする姿を見せたりして，子どもが次に向かえるようにしていく。

ア：　知っている正月遊びを通して，友達を誘ってやりたいことをしたり，やり方を教え合ったりしている。

また，友達と同時にカルタの絵札に触れたときに，「同じだったからジャンケンで決めるのはどう？」と，友達に提案し，ルールを決めていた。

遊びを作っていく中で，折り合いが付けられない場面も予想される。子どもが自分たちで解決しようとする姿を見守り，教師は状況に応じて個々への援助をしていく。る・は，「聞いてみようよ。」と相手の話をじっくりと聞くことを促していく。また相手にも「～ってどういうこと？」と尋ねて言葉を引き出したり，「～したいのは～だからだよ。」と友達に考えが伝わるような言い方を一緒に考えたりしていく。また，遊んだ後に，「～ちゃんのやり方をやってみて，面白かったね。」と言葉掛けをし，る・に「受け入れてみたら楽しかった」という気持ちが感じられるようにする。

1　自園化の実際

（３）保育実践
～当日の子どもの姿より～

　子どもたちが同時にカルタの絵札をとり誰がその札をとるかということで，ジャンケンで決めようとしていた。教師は互いの考えや思いを伝え合ってほしいと願い，「それでいいのかな。」と子どもたちに投げ掛けた。すると，「今の絵札は，無かったことにしよう。」「同時だったから，二人ともとったことにしよう。」と考えを出し合い，互いが納得できる方法で解決できた。

２　配慮事項

（１）　子どもの姿（事実）

→読み取り（経験していること）

→願い（育ち・次に必要なこと）

→環境の準備（物的・人的）

【　一連の過程を、ひとまとまりに考えていくことが、アプローチカリキュラムの肝。】

2　配慮事項

（２）　援助の心づもり

【　アプローチカリキュラムを、
日々の保育に活かすことが、
アプローチカリキュラムの意味。】

2　配慮事項

（３）　その子どもに経験させたいことを明確にすること

- ○　知識・技能の基礎
- ○　思考力・判断力の基礎
- ◎　学びに向かう・人間性

【　その子どもに対する、育てたい内容を経験させるチャンスを逃さないこと・見極める多角的な目をもつこと。
　その経験を振り返り・次に必要なことを見通すこと。】

３　メリット

（１）一つ一つの経験＝点が線になっていく一人一人のストーリー
（心の根っこを育てる＝教育課程）を展開していくこと。）

３　メリット

（２）アプローチカリキュラムは、年長９月からにスタートになっているが，子どもが入園したときからの経験が積み重ねられての姿であることが明確に実感される。

ア：進んでいる中でふと友達が集まって関われる状況になり，それを喜んだり，抵抗があるとそこから離れていったりする。

○　ふと友達と関わったり「～のつもり」になって自分の思いを言葉や仕草で表せる状況づくりをする。子どもの身の回りの生活のことや行事での経験など，教師もアイデアを出していく。（もちつき，おふろなど）教師も一緒に楽しみながら，ふと関わってくる子どもの姿を見取り，「○○ちゃんと一緒に遊んで楽しいね。」などと友達との関わりを心地よく感じていることを価値付けしていく。

14日（月）	…	…（水）	24日（木）	25日（金）
				幼保小 合同研修会

<ねらい◎
◎　教師や…
○　教師や…
○　嫌なこ…
○　繰り返…
○　吐く息…

◎　教師に支えられながら，降園時…手洗いうがいなどをやってみようとする。健３（7・8・9）

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10項目)】
① 健康な心と体
② 自立心
③ 協同性
④ 道徳性・規範意識の芽生え
⑤ 社会生活との関わり
⑥ 思考力の芽生え
⑦ 自然との関わり・生命尊重
⑧ 数量・図形，文字等への関心・感覚
⑨ 言葉による伝え合い
⑩ 豊かな感性と表現

先期の子どもの姿

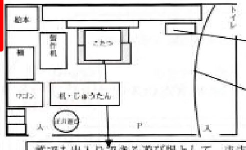
ア：遊んでいる中でふと友達が集まって関われる状況になり，それを喜んだり，抵抗があるとそこから離れていったりする。
・ と・・，ゆ・・・は，ままごと場を自分たちの遊び場として独占しようとする様子があり，ふと友達が中に入ろうとする時に「入れてって言った？」と確認したり，特定の友達を入れようとしなかったりする姿が出てきた。周りの子どももその様子を感じ取り，「入っていい？」と確認したり，興味があっても離れて見ていたりする。

イ：2学期楽しんだ遊びに関わることで安心したり，新たな環境に興味をもって関わることで居場所を見付けたりしている。
・ き・・，ゆ・は2学期に楽しんでいた車が，と・・はままごとの場を，ゆ・・・はと・・の存在が，それぞれよりどころになって安心して過ごす。
・ し・，は・かは，家での経験もあり絵合わせや福笑いなどに興味をもって，教師を誘って遊び出す。思いがけない面白さを感じて，繰り返し遊ぶことを楽しむ。
・ り・，は・なは，パズル…型通りにやろうとする傾向…置き方をして楽しむことを…掛かる様子もあるが，教師…で徐々に受け入れて楽しむ…

ウ：冬休み中に体調を崩して…⇒生活のリズムを整え取り戻…
・ ほ・・が冬休み中から引…遅れての登園になったが，…や場があることで安心して…

の・・：喜んで登園する中で…環境に慣れるまでよく見て…キンシップを取りながら気…
・ 久しぶりの登園を喜んで…園当初の慣れない頃に戻っ…られる。持ち物の始末など…は取り組むが，遊び出せず…周りの様子を見ていた。時…に遊ぶことで安心してくる…分から遊び出す姿も出てき…

教師の援助・環境構成



段ボールの囲いなど，子どもが自分で扱えて，何にでも活用できるものを置いておく。

【教材】
・絵合わせカード　・福笑い　・パズル
・こま（指先）　・羽つき
・毛糸　・スポンジ　・画用紙
・面ベルト　・紙棒　・巧技台
・段ボールの囲い（15㎝ぐらいの高さの物）　など

ふうせんをぶら下げて羽根つきを楽しめるよう，広く場を確保しておく。

誰でも出入りできる遊び場として，ままごとの環境は固定しておく。

○　ふと友達と関わったり「～のつもり」になって自分の思いを言葉や仕草で表せる状況づくりをする。子どもの身の回りの生活のことや行事での経験など，教師もアイディアを出していく。（もちつき，おふろなど）教師も一緒に楽しみながら，ふと関わってくる子どもの姿を見取り，「○○ちゃんと一緒に遊んで楽しいね。」などと友達との関わりを心地よく感じていることを価値付けしていく。
・ と・・や…に遊び仲間に入ることを拒まれたり，遠慮して遊び場に入れなかったりする場面では，「どうしてダメなのかな…遊び仲間の一人として思ったことを子どもに投げ掛け，子ども同士の関わりをつくっていき…場がもう一つ必要ならば，ままごとの場やカーペットなど子ど…

教材

<手遊び・歌>
○　教師や友達と声を合わせたり触れ合ったりする，歌詞と動きが一致する面白さを感じる経験。
・　コンコンコンクシャン
・　ゆきのこぼうず
・　ゆきだるまのチャチャチャ（雪に親しんで）
・　かごめかごめ
・　おしくらまんじゅう（みんなで声を出す。友達の名前を言うなど。）
・　おおきくみっつ（♩□□　）（全身でリズム（速度や強弱）を感じ取る。カスタネット，鈴など）

<製作>
○　毛糸に触れる経験。はさみを…

振り返り

ア：行事や絵本の経験から，物的環境から自分なりにイメージをわかせて思いや仕草などで表すことを楽しんでいる。⑤⑥⑨⑩
イ：簡単なルールのある遊びを一人でじっくりと取り組んだり，教師や友達を誘ったり，遊びの仲間によせてもらったりして楽しむ。中には自分…

さくら組　短期案　平成３１年１月１４日～１月２５日

１４（月）	１５（火）	１６（水）	１７（木）	１８（金）	１９（土）	２０（日）	２１（月）	２２（火）	２３（水）	２４（木）	２５（金）
成人の日	園内研修 短期案検討	避難訓練		年中園外保育 （いくとぴあ食花）			年長就学時前講演会 内野地区幼小中連携推進会	げんキッズタイム 園内研修			幼・保・小合同研修会

＜ねらい◎・内容○＞
◎　教師や友達と一緒に，感じたことや考えたことを表して遊ぶことを楽しむ。
○　自分の思ったことや考えたことを教師や友達に伝えようとする。　人２（６），言２（２）
○　なりきって自分なりに話したり動いたりすることを喜ぶ。　表２，３（４）（８），言３（９）
○　友達の言葉や動きに興味をもち，自分もやろうとする。　健２（２），人１，２（２）（７）
○　遊びに必要なものを友達と一緒に作ることを楽しむ。　表２，３（５）（７），人２（８）

◎　冬の
○　雪・

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 10 項目】
①　健康な心と体
②　自立心
③　協同性
④　道徳性・規範意識の芽生え
⑤　社会生活との関わり
⑥　思考力の芽生え
⑦　自然との関わり・生命尊重
⑧　数量や図形，標識や文字などへの関心・感覚
⑨　言葉による伝え合い
⑩　豊かな感性と表現

イ　正月遊びに興味をもって友達に思ったことを伝えたり聞いたりして関わる姿がある。

ア　誕
りたい
・　職
ら，
支の
また
にな
ん

イ　正月遊びに興味をもって友達に思ったことを伝えたり聞いたりして関わる姿がある。
・　誰かがすごろくや羽根つきやコマを始めると，「入れて。」「一緒にやろう。」と誘い合って遊ぶ。は・・し・，さ・，ゆ・・・，こ・・その中で，遊び方を伝えたり，思ったことを表したりしてじっくりと楽しんでいる。
ウ　すごろくやカルタ遊びを通して文字や数に興味をもって読んだり，数えたりしている。
・　ゆ・・は文字を読めないことが不安な様子があるが，教師やゆ・・・とは安心して遊ぶ。サイコロの目を一つずつ数えながら数にも興味を示している。
エ　冬休みに経験したことを再現して楽しむ姿がある。友達のしていることに興味をもって，他の子もやろうとする。
・　ゆ・・は餅を焼いたり，おせち料理を自分なりに作って教師に受け止めてもらうことで安心する。
・　こ・・が始めた年賀状や凧作りに興味をもって他の子も作ると，園長Tに届けたり，凧を園庭で飛ばしたりする。凧揚げは「走らなくても飛ぶよ。」と風の強さの変化を感じて伝えていた。
オ　興味をもったことを繰り返し取り組み，「できるようになりたい」と意欲をもっている。
・　いろいろなコマの回し方をして面白さを感じたり羽根つきを何回もできるように繰り返しやってみたりしている。できたことを「見て見て。」と表したり，友達の姿に刺激されてやってみたりする。し・は，こ・・のように逆さ回しがすぐにできないと，「できない。」と言ってあきらめようとする。
・　は・・は羽根つきを「次は○回やるね。」と，めあてを決めて繰り返し取り組む。

＜製作ワゴン・教材＞
画ベルト
色画用紙（大，中，小）
折り紙・お花紙
ガムテープ　セロテープ
廃材　など

…きた絵本，興味をもった話な…り」になって教師も一緒に遊んだり，自分のなりたいものになって動いたりして遊んでいく。子どもたちのつぶやきや動きを取り入れながら，簡単なやり取りの繰り返しをつないで，楽しんでいけるようにする。
・　ゆ・・・が「～のつもり」になって伸び伸び表す姿を生かして，教師も一緒に遊びながら周りの子も表したくなるような楽しい雰囲気をつくっていく。
○　子どもから「こういうものがしたい。」と思いが出たときに，教師が仲介しながら友達とどうしたらいいかを考え合える状況をつくっていく。必要なものが出てきたときに，それぞれの思っていることや考えていることを出し合いながら作ることができるように素材や教材を用意しておく。
○　楽器（カスタネットやすず，タンブリン）や親しみのある曲を環境に用意し，音楽に合わせて自由に鳴らして楽しめるようにする。また，「カレンダーマーチ」など慣れ親しんでいる曲に合わせてリズムを打ったり，順番に鳴らしたりする・一斉に鳴らす・止めるなど楽しみながら楽器に親しんでいく。
○　自分の思いや考えたことを友達に伝えたり相手の話を聞こうとしたり，興味をもったことを繰り返し試したり，「できるようになりたい」と意欲をもって取り組んでいけるように，今期の前半は引き続き正月遊びを環境に出していく。
・　友達同士で…友達に「こうしよう。」「いいね。」などと考えを受け入れ合ったりしている場面では，教師は関心…一緒に考えたんだね。」「○○くんが教えてくれてうれしかったね。」「一緒にやって楽しかった…のつながりを実感できるようにする。

教材
＜表現＞
○　みんなで声やリズムを合わせる心地よさを感じる経験
・　カレンダーマーチ(振り付き)
・　ソレ！はくしゅ
・　ともだちラララ
・　みんなだれかがすきになる
・　赤鬼と青鬼のタンゴ
○　手・体・楽器を使ってリズムに合わせて打つ経験
（すず・タンブリン・カスタネット）
・　さんぽ
・　ミッキーマウスマーチ
・　小さな世界
＜健康＞
○　長縄・短縄に親しむ。
・　縄に触れて遊ぶ
（いろはにほへと）
・　長縄を見立てたり跳んだりくぐったりする
（へび・波など）
・　教師が円形に回す縄を跳ぶ
＜製作＞
○　丸を切る経験
・　雪（切り込みに毛糸を巻く）
・　雪だるま
○　紙を折って切り紙をし，開いたときの模様の面白さを感じ

振り返り
ア　なりたいものになったつもりで動いたり，自分の家を作ったり，思い付いたことを話したりして表している。
イ　友達の動きやしていることが分かってまねたり，自分なりに関わろうとしたりしている。
ウ　友達の表しを受け入れて同じようなイメージをもって遊ぼうとする。

○　自分の思いや考えたことを友達に伝えたり相手の話を聞こうとしたり，興味をもったことを繰り返し試したり，「できるようになりたい」と意欲をもって取り組んでいけるように，今期の前半は引き続き正月遊びを環境に出していく。

血肉の通った
アプローチカリキュラムを！！

目的へ対象の子どもを当てはめていくか，目的を子どもに合わせていくのか，その捉えによって子どもの経験が変ってしまわないように，たくさんの目で検討する。